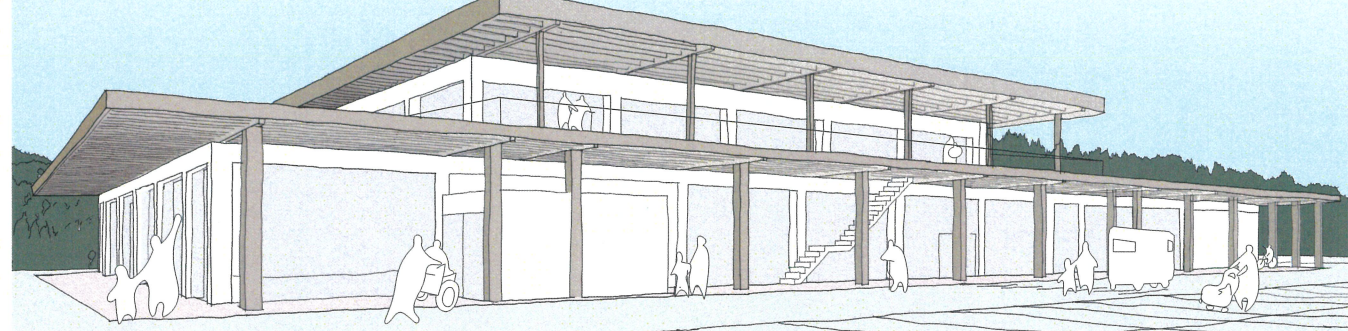


地域で担う奥会津のケアリング・コミュニティ

県立宮下病院は「愛ばんしょ外来」を設けるなどして、奥会津の医療拠点として地域の人々の生活や暮らしを見守り続けてきました。山間のへき地にあたるこの地域では高齢化が深刻化しており病気の患者のみならず高齢者、交通弱者、生活困窮者など介護や支援を要する市民へのサービスや情報を提供・交換し合う交流の場が求められています。そしてこの病院が「ケアリング・コミュニティ」の拠点となり、限られた医療資源・医療人材を効果的に活用した未来のへき地の医療体制（プライマリケアチーム）の構築する場となることを目指します。



■外観イメージ

01 地域の人々の安全・安心を支える施設

●地域に開かれた回遊空間

1階に外来やバックヤード、2階に病棟を配置し、大きな軒下空間が地域の人を迎え入れます。来院者動線は軒下に面して明るい回遊性を有し、わかりやすく、且つソーシャルディスタンスに配慮した計画とします。中央執務室や処置室のスタッフからも駐車場や待合の様子、患者の体調への気配りしやすいような配置とします。

●スタッフ間のコミュニケーションを円滑にするワンルームの執務室

保険の種別や管轄行政の異なるサービスを利用者がストレスなく受けられるために、異なる所属のスタッフたちの日常の「報・連・相」と緊急時の即時対応が求められます。医療事務、医局、在宅医療、地域連携室などの執務室を1ヶ所にまとめ、全ての診察室や検査室や病棟は中央処置室、執務室と連携のとりやすい配置とします。ここでケアチームがイキイキと働くことが地域の安心な暮らしと健康を守ります。

02 奥会津地域の特性と調和し、特別豪雪地帯を考慮した施設

●堅牢なRC造を核とし、柔らかな木の空間が包み込む

中央2階建部分をRC造とし、周囲の平屋部分をRC造+木造とし、大きな軒下空間は地域の縁側となり、地域とつながります。感染管理の求められる以外の部分においてリハビリや待合、多目的ルームなど木質のやわらかな空間とし、患者や家族の不安を緩和し、「心ある医療」をサポートします。

●堆雪型の大きな屋根と軒下空間

・落雪時の事故や構造物への負担を軽減するために堆雪型の屋根とします。外来患者等のアクセスは南側の軒下空間に限定し、冬季間にもアクセスしやすい空間とします。
・車庫を別棟とせず、建築と一体化することや建物の出角・入角をなくすなどで建物周辺の除雪しやすさに配慮します。雪庇の融雪や融雪水による建築物の劣化に配慮した排水計画を行います。

03 災害や感染症に強い施設

●災害時に強い構造

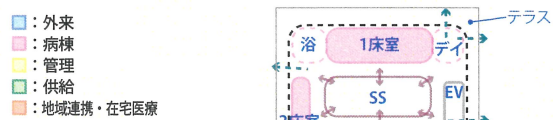
医療機能として重要な心臓部を中央のRCコア部分に配置し、災害時の在院者の身の安全を守り、機器の継続使用を可能とします。水平力はRC壁により負担し変形量を少なくすることで、大地震後の機能確保を行います。非構造部材である天井等も木材梁への固定などで落下が少ないようにします。

●BCP（事業継続対策）対策

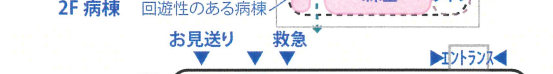
積雪に配慮した太陽光発電・蓄電池を将来設置可能な屋根（ステンレスシーム溶接防水）とします。その他自家発電機等を保有し、停電時の情報系電源と医療材料や水・食料等を備蓄できるスペースを確保します。

●感染症への対応

1階2階ともに積雪に影響の受けない軒下に換気口を設け、空気のバランス・陰圧エリアを整備します。感染症患者動線を分離し感染拡大時にも通常の医療提供ができる施設にします。



■配置ダイアグラム



■2F病棟



■1F外来・管理

■配置ダイアグラム



■受付・ラウンジのイメージ



■待合のイメージ



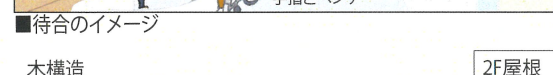
■待合のイメージ



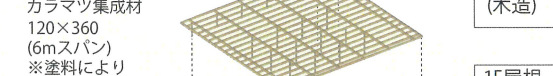
■待合のイメージ



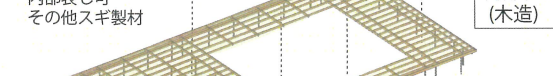
■待合のイメージ



■待合のイメージ



■待合のイメージ



■待合のイメージ



■待合のイメージ

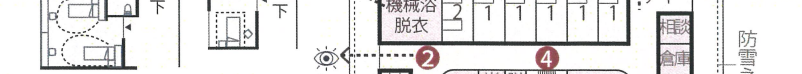


■待合のイメージ

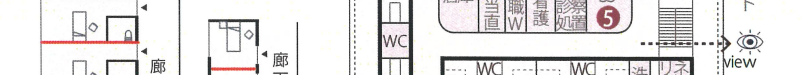
■構造ダイアグラム



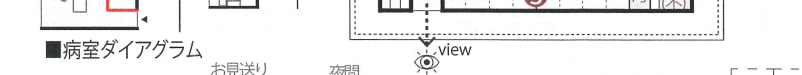
■病室ダイアグラム



■配置ダイアグラム



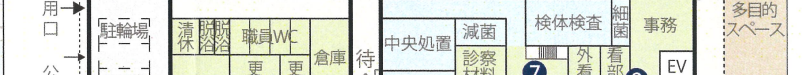
■配置ダイアグラム



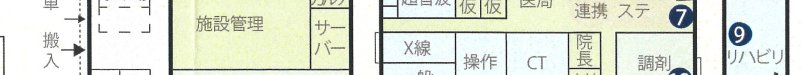
■配置ダイアグラム



■配置ダイアグラム



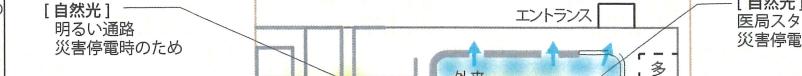
■配置ダイアグラム



■配置ダイアグラム



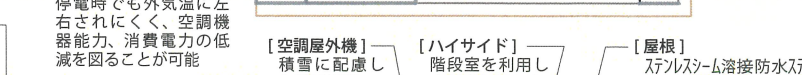
■配置ダイアグラム



■配置ダイアグラム



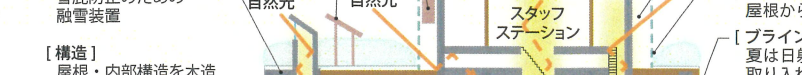
■配置ダイアグラム



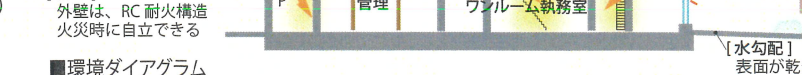
■配置ダイアグラム



■配置ダイアグラム



■配置ダイアグラム



■配置ダイアグラム

■環境ダイアグラム

2F

- 眺めの良い介護浴室
- 視線の抜ける病棟
- ベッド一人ずつに窓がありプライバシーに配慮したサンデッキ型病床
- 1-2階のスタッフ同士を繋ぐ専用階段
- EV・階段の管理しやすいスタッフステーション配置
- 冬は防雪ネットを施す
- 南面した軒下テラス

1F

- 避難用階段を分かりやすい位置に設置
- 出入り口を包含する南面の深い庇
- 緑の見える心地よい待合
- 会計・処方箋の待合ともなるブックラウンジ
- 拡張可能・活動が垣間見える多目的室
- 救急搬送から中央処置室放射線検査室へのルート
- 自然光を落とす階段吹き抜け
- 診察・検査のバックに隣接したワンルーム執務室
- 眺めの良いリハビリ室
- 服薬指導コーナー
- 外の見える検査中待ち
- 栄養指導コーナー
- 1室化して会議室として利用できる777休憩室

04 県産材の積極的な活用やエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設

●福島県・三島町の森林資源の活用

準耐火建築物（ロ-1）の外壁耐火（外壁RC造）とします。内部については、防火に配慮しながら、県産材を積極的に活用した木造とします。会津地域で伐採されるカラマツ集成材やスギ無垢材を活用し、地域の林業を生かす構法とします。また準耐火構法として縦ログ構法壁を界壁などに利用します。三島町の桐や工芸技術を生かしてアイデンティティを感じられる家具や照明の提案を行います。木材比率を高めることで、高騰化する鉄鋼材の使用量を抑え、建設費を抑える計画とします。



■県産の製材を活用 ■防雪ネット ■会津桐

●パッシブデザインを生かし、ランニングコストを下げる

外断熱を行いRCの蓄熱効果により外部環境に左右されにくい室内環境となり、パッシブエネルギーを活用し、環境負荷を軽減した建物とします。高断熱な建物とし、ZEB ready を達成できる建物とします。太陽光などの創エネもおこなうことで、将来的にNearly ZEBも視野に入れて設計します。

05 将来的な施設の可変性

●将来の可変性に対応する構造形式

中央2階建部分はRCラーメン構造。外周平屋部分は水平力をRCラーメン構造で負担します。その他を木構造とすることで将来の間仕切り位置の改修に対応します。1F中央の執務エリアは、年々生じる診療報酬基準の変更や医療と介護の相互乗り入れなどに追従できるようにできるだけ間仕切りを無くします。2F病棟は将来的に介護系の療養室に変わる場合も想定し広い廊下幅とし、感染症、ベッドコントロールを考慮し、個室に改修可能な平面計画とします。

06 その他特に重要と考える課題と提案

●BIM活用によるデータ連携とコストコントロール

今回の設計JVも俄仕立てのメンバーではなく、協働実績豊富なチームです。現在もBIMのチームワークを使った公共施設の設計に取り組んでいます。BIMデータを発注者や施工者と共有し、3Dなどでリスクや新しい病院環境の共有をおこないます。さらに、施工後も維持管理・運用に活用され、BIM事業のモデルとなるようにサポートします。BIMを活用し、数量を即時に把握することで、基本設計、実施設計段階において、概算見積を算出し、コストをコントロールしながら設計を行います。

技術提案書（様式5）

※印の欄は記入しないでください

受付番号	
※	6

■山に囲まれた敷地



■広域地図